

研究 5月30日(月) NO. 2

研究主任(道徳教育推進教師)



ツバメが巣作りに励んでいます。夏を感じる今日この頃。1学期も半分終わりました。子どもたちは、先生方の思い描いた方向に進んでいますか?長いようで短い1年間。200日の中の40日、1/5は過ぎました。日々を大切にして、子どもたちにいろいろな力をつけていきたいです

ね。

さて、5月26日には朝倉先生においでいただき、第1回目の授業研究を行いました。先生は、いつもキーワードが使われてわかりやすくお話をくださいます。またまた今回も、今後の授業に生かせること満載でしたね。お話から学んだことをまとめてみました。

第2回校内研修での学び

【第2回校内研修

2年生 『きいろいベンチ』 4-(1) 公德心, 規則の尊重 東京書籍

指導講話: 朝倉淳先生

〈 キーワード : 自分 価値 資料 〉

★自分

○ 豊かな人間性や自立心をはぐくむ時、人はまずありのままの自分を見つめる。そして、自覚する。次に、高められた価値を照らし合わせて自分を見つめ直す。だからこそ、発問が重要となってくる。

○ 発問は、進行形の事を聞くこと。

注意: 今回の授業の場合、ありのままの自分を見つめるとしたら、この資料の「はっ」としたに限定をかけて発問することは危険である。例えば、「おばあさんの事をてつおくんはどう思ったでしょう。」ならば、何とも思わない児童も出てくるであろう。方向性を示すことばは、あまり使わない方がよい。

★価値

○ 公共物・公共施設のとらえは、子どもたちにとって難しい。そこで、『みんな』ということばを『多数(たくさん)の多様(いろいろ)な人が関係しているところ』と言い換えて使うと捉えやすいのではないか。

その『みんな』が使うから『きまり』が必要となってくる。きまりのもっている意味を押さえることができる。

- 『どうする』という問いは、大切な部分と難しい部分がある。
中心となる価値に対して、葛藤が起きる場合はよいが、今回の学習では、正直であるべきか勇気を出して言うべきかを聞くことになり、ねらいとはズレている。

★資料

- 約束やきまりを守ろうというねらいがある場合、約束やきまりを主人公が認識している必要がある。しかし、これはわからない資料である。
後半部分は、なかなか本人たちは気づかないのではないか。
そこで、例として、資料を半分で切る。後半は、第3者が見ていたこととして、何がいけないのかを尋ねることでねらいに迫ることができる。
- 提示は、今回パネルシアターの手法を使っていた。これをする場合、1つ固定したものを決めておき（今回はベンチ）まわりを変えていくことで子どもたちの興味関心を高め理解を深める。
- 説話について、対比の手法を使うと理解がしやすい。

今後の予定

6月11日	5・6年授業研究
6月29日	1年授業研究
7月6日	3・4年授業研究

